

INFORMATION

プラネタリウム冬の番組

光のカーテン・オーロラ

カナダの星空のもと、美しいオーロラの映像を交えながら、オーロラの正体をさぐっていきます。

12月18日(土)→4月10日(日)

平日	16:00
土曜日	13:30 17:30
日・祝日	11:30 15:30

今夜の星空と天文ニュース

今夜の星空の見どころと最新の天文情報。

土曜日	15:30
日・祝日	13:30

キッズアワー

幼児～小学校低学年向け番組。

土曜日	11:30 (上映日に注意)
1月8・15・29日	「月旅行」
2月5・12・19日	「月旅行」
3月5・12日	「星座はじめて物語」

MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

満天の星と心地よいサウンドが織りなすファンタジックなひとときをどうぞ。

土曜日	19:00
1月8日(土)	「お正月クラシック特集」
2月19日(土)	「ザバダック特集」

プラネタリウムコンサート

12月25日(土)	クリスマスキャロルコンサート
2月5日(土)	葛飾フィルハーモニー管弦楽団
3月12日(土)	ザバダック・ライブ

※いずれも事前申込制

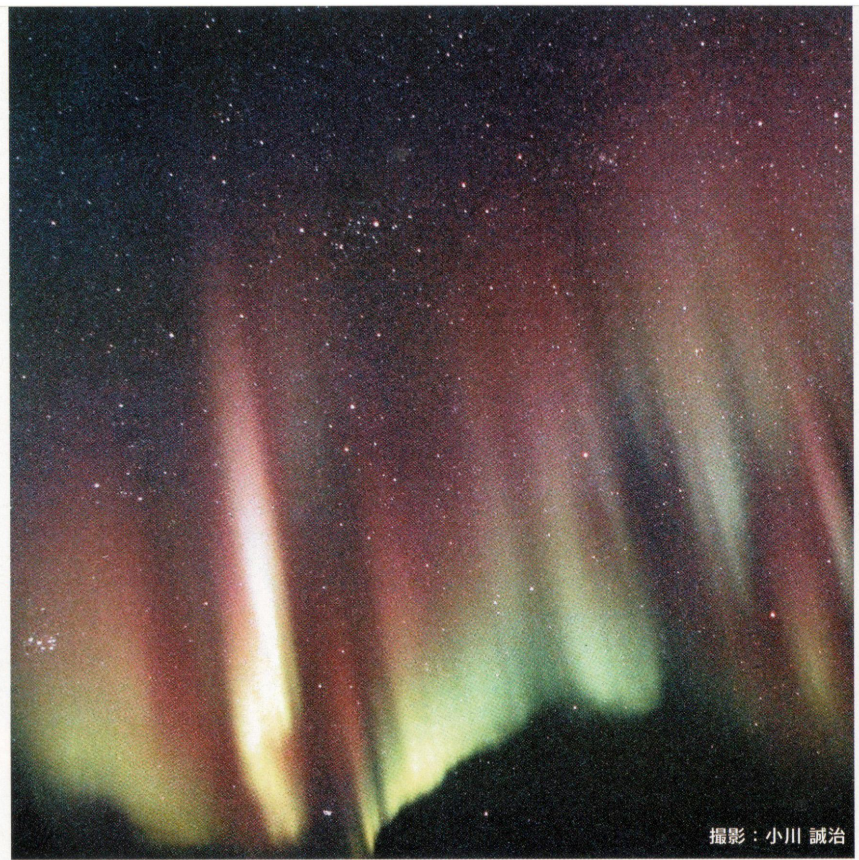
■ 料金 (入館料を含みます)

大人450円/小・中学生150円/幼児50円
土曜日は小・中学生以下無料

■ 休館日・休演日

月曜日 (祝日は開館)
第2・4火曜日 (祝日は開館し翌日休館)
12月27日(月)～1月4日(火) (年末年始)
1月18日～19日 (機器保守点検のため)

■ 上映15分前までにご来館ください。

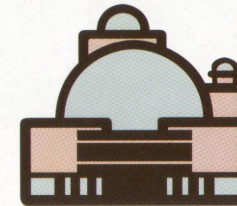


撮影：小川 誠治

PLANETARIUM

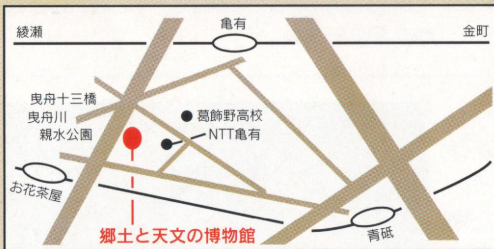
光のカーテン・オーロラ

Vol.55 2005・冬



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

交通のご案内



- 京成線 [お花茶屋] から8分
- J R常磐線 [亀有] から25分
- 京成タウンバス
(有57 亀有一タウンバス車庫)
[共栄学園] 下車徒歩5分
- 駐車場に限りがございます。
電車・バスをご利用ください。

ホームページでも詳しくご案内しています。 <http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum>



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101



2005年・冬の星空より

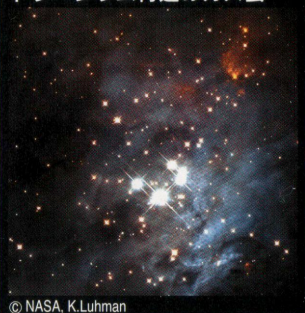
狩人オリオンの雄姿



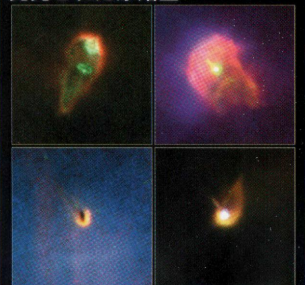
オリオン星雲



トラペジウム付近のガス雲



発見された原始星



© NASA, J.Bally, H.Throop, and C.R.O' Dell

■ 星座の王者！ オリオン座

「冬の星座は何？」といえ、多くの方がオリオン座と答えます。この星座には、ベテルギウス（意味は右の脇の下）とリゲル（意味は左足）の2個の1等星と三ツ星など5個の2等星が含まれています。明るい星が多いので目立ち、空気がすんでくる季節で、いっそう華やかに見える星座だからです。

オリオンはギリシアの狩人で、星座の姿も左手にししの毛皮の盾を持ち、右手にはこん棒を振り上げる勇ましい姿です。自分の強さを自慢しすぎたため、神様が差し向けた毒さそりに刺されて倒れた後、星座になったことはよく知られています。

■ M42・オリオン星雲に注目

オリオン星雲は三ツ星のすぐ下にあり、双眼鏡や望遠鏡では、羽を広げた鳥のような姿に見えます。倍率を上げるとその中心にはトラペジウムという4個の青白い星があります。表面温度が1万度以上の高温の星です。

ハッブル宇宙望遠鏡により、トラペジウムの周りに原始星という星の卵ともいふべき天体が発見されました。しかも、それらの星は、トラペジウムが放つ強力なエネルギーでガスがはぎ取られ、尾を引く彗星のような姿をしています。

オーロラ ア・ラ・カルト

一度は見てみたい宇宙の神秘・オーロラ。海外へのオーロラ観察ツアーも盛んに行なわれており、一度オーロラを見ると何度も見たくなる人も少なくありません。そんなオーロラに関する話題をご紹介します。

■ 日本でもオーロラの観測

北海道の陸別町にある銀河の森天文台は、国内で唯一のオーロラを積極的に観測している天文台です。年に1回程度の出現が観測されており、最近では2004年11月に星空を赤く染めるオーロラが観測されました。

オーロラの規模が大きくなると、関東や中部地方に現れることもまれにあります。

国内でのオーロラは、北の空が赤く染まるのが特徴です。



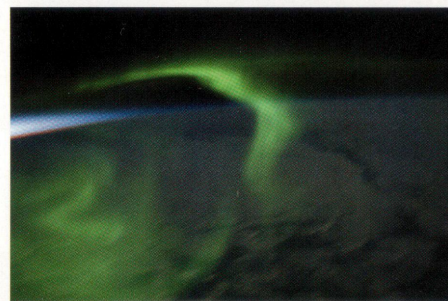
2004年11月のオーロラ

© 銀河の森天文台

■ 宇宙から見たオーロラ

写真は、現在建設中の国際宇宙ステーションで撮影されたオーロラです。地球の大気中にオーロラが現れている様子がよくわかります。その高さは、地上数百kmで、雲や流星が現れる場所より高く、気象衛星や国際宇宙ステーションの位置よりは低い所です。

ヨーロッパ方面の飛行機からも、夜間に北極圏付近を飛行する時、オーロラが見られる場合があります。



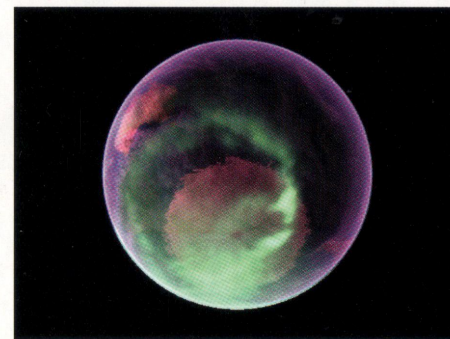
国際宇宙ステーションから見たオーロラ

© Don Pettit, ISS Expedition 6, NASA

■ オーロラが良く見える場所

北極や南極地方でオーロラが見えることはよく知られています。しかし正確には、アラスカやカナダ、北欧のように極点から離れた場所でもよく見られます。地球規模では、磁北(南)極を取り巻く巨大なリング状に現れ、これをオーロラ・オーバルといいます。リング状になる原因は、地球の磁場と深い関係があります。

写真は、NASAの地球観測衛星「IMAGE」が撮影した南極大陸付近のオーロラで、リング状に出ていることがよくわかります。



オーロラ・オーバル

© NASA / UC Berkeley